

【総合・小5・「みんなに届け！伝統工芸桐生染め」①】

育成を目指す資質・能力

桐生染めやそれに携わる人々の思いに触れ、オリジナル染め物を作ったり、魅力を伝えたりする活動を通して、地域の伝統工芸のよさに気づき、地域の伝統や文化を大切に、継承に積極的に関わろうとすることができる。

ICT活用のポイント

- ① ウェブ会議システムを活用して染め物職人から情報を収集 → 言葉や映像で多様な情報をやりとりできる。
- ② ICT端末で職人の技や作業工程等を記録、オクリンクで共有 → 写真や動画で情報を記録・共有・再生。

事例の概要

〈探究の1サイクル目〉【桐生染めの職人と出会い、思いを知る】 → 【思いや魅力発信のための調査活動】
→ 【『染め物新聞』にまとめて校内に広める】

〈新たな課題の設定〉

染め物職人へインタビューし、思いを知る。
「染め物で素敵なオリジナルストールをつくろう」

〈情報の収集⇔整理・分析〉

1. 工房に見学に行き、手順やコツを調べる。
2. 職人への質問と試し染めを繰り返し行う。
3. 絹のストールを染める。

〈まとめ・表現〉

ストール鑑賞会を開き、作品を家族に贈る。
→【振り返り】来場者アンケートを集計し検証。

◆自分たちでできる染め物を求めて草木染め職人と出会い、草木染めの魅力や職人の思いを知り、「桐生染めの一つである草木染めに取り組み、オリジナルストールを作って染め物のよさをアピールすれば、地域の染め物への関心が高まるだろう」という仮説を立て、新たな課題「染め物で素敵なオリジナルストールをつくろう」を設定。

- ◆ 草木染め工房に見学に行き、職人へインタビューし、手順やコツを知る。
- ◆ 集めた情報を基に、絹の端切れ染めをする。
- ◆ 「草木染めのよさ」がより伝わる染め方やストールのデザイン案を検討する。
- ◆ デザイン案の実現に向けて職人に質問したり、繰り返し試し染めを行ったりする。
- ◆ デザイン案に従って、絹のストールを染める。

- ◆ オリジナルストール鑑賞会を開き、来場者に感想や伝統工芸に関する意識調査を行い、集計結果をまとめる。
- ◆ これまでの活動の成果や課題を振り返り、桐生染めやそのよさを多くの人に発信するために自分達にできる方法を話し合う。

【総合・小5・「みんなに届け！伝統工芸桐生染め」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【場面①】ウェブ会議システムを活用して染め物職人から情報を収集（情報の収集）

これまでプロへのインタビューや相談をする際には、実際に、校外の現場にバス等で移動し、直接話を聞いたり電話で相談したりすることが慣例になっていた。しかし、ICTを活用することで、**児童とプロがオンラインでつながり、学校内で相談やインタビュー等ができるようになった。**

このことにより、**児童が繰り返しプロと関わる機会をもてるようになったため、活動の進捗状況に応じて適宜相談できるようになった。また、言葉だけでなく、映像でコツを教えてもらうことができるようになった。さらに、移動時間の短縮や、担任の校外学習に係る準備負担が大きく軽減された。**

本実践では、児童が、染め物職人に対して、自分でデザインを考えた絹のストールの染め方について繰り返し相談を行った。その情報を基に、よりよい実践に結びつけることができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



【場面②】職人の技や作業工程をICT端末で記録・共有（情報の収集）

これまでプロの技を見たり、アドバイスを聞いたりする際には、メモ用紙に文字や図、絵等で記録していた。そのため、メモが苦手な児童は調査活動に積極的に参加できないことがあった。しかし、ICTを活用することで、**児童がプロの技やアドバイス等を動画や写真で記録し、ICT端末上で共有したり、整理したりすることができるようになった。**

このことにより、**児童が集めたい情報に適した記録方法を選択し、一人一人が主体的に調査活動や情報の整理をできるようになった。**

本実践では、児童が、染め物職人の技や作業工程をICT端末で記録し、フォルダ内に整理したりオクリンクで共有したりして活用可能な情報にすることができた。